

教育実習事前・事後学習 a (中・高) (2 単位)

専門 > 教育学部 > 基礎理解に関する科目等

3 年、4 年 通年(前→後)

週間授業

遠藤 貴広 (endo@u-fukui.ac.jp, 0776-27-8964 (2518)、総合研究棟 V (教育系 1 号館) 6 階)

■ナンバリングコード

05-TPR-301 教育学部 学校教育課程 / 教育実習 [3 年次レベル]

■授業概要

○実習校の研究紀要と授業づくりに関わる文献の検討を通して、実習校で実現しようとしている教育実践のあり方を探る。

○主免教育実習で経験したことを先輩・後輩に伝え、その経験の意味を探る。

○先輩の教職学習個人誌や後輩たちの報告、教育改革の最新動向を確認する資料を手がかりに、今後の教育実践研究に何が求められるかを探る。

■到達目標

学習の専門職として生涯にわたって学び続ける土台を築く。

実践コミュニティの一員として、他者と協働し、他者や自身の実践から学ぶ。

子どもたちが活動的で協働的な学習に参加することを促すために、適切な学習環境・生活環境をつくりだす。

他、「教員養成スタンダード共通【B】本学部の学生が目指すべき目標」を参照のこと。

■授業内容

○前期合同オリエンテーション

○これまでの協働探究の成果を確認する一前年度の個人最終報告書とチームポスターの検討ー

○公教育の課題に関わる資料の検討

○実習校研究紀要の検討

○公教育の課題に関わる文献の検討

◎主免教育実習

○後期オリエンテーション：前期からの課題の確認と後期の展望

○教育実習の経験を聴き合う

○新たな協働探究の足場を探る一課題図書の見直し

○教職の展望一前年度の教職学習個人誌の見直し

○最新動向の見直し

○個人最終報告書の構想

○チーム考察の見直し、執筆作業状況の確認

○個人最終報告書草稿の見直し

○教育実践研究の展開を振り返る：チームでの協働探究の振り返りと公開クロスセッションの準備

◎公開クロスセッションでの報告

■準備学習（予習・復習）等

個人レポートの作成と改訂。

テーマに関する文献・資料の収集・検討。

チームでの打合せ。

■授業形式

【授業形式】

演習、実習

学年とコースの異なるチームをベースにした省察的な協働探究を重ねる。

個人レポートを持ち寄ってチームで議論し、その議論を踏まえてレポートを改訂する。

サイクルごとにチーム協働探究テーマを決め、チームレポートないしはポスターを作成する。

これらレポート群を読み直すことで、探究の足跡を振り返り、学期ごとに個人報告書を作成する。

報告書はチームの異なるグループでのクロスセッションで検討を行い、そこでの議論を踏まえた改訂版を e-ポートフォリオに蓄積する。

■成績評価の方法

サイクルごとに提出される個人レポートとチームレポート、ならびに、それらレポート群を振り返って作成した個人報告書により評価を行う。評価基準については、「教員養成スタンダード共通【E】学習成果物の評価基準」を参照のこと。

■教科書・参考書等

秋田喜代美・一柳智紀・坂本篤史・瀨田秀行 (2025)『これからの授業研究入門：23 のキーワードから考える』東京図書。

石井英真 (2020)『授業づくりの深め方：「よい授業」をデザインするための 5 つのツボ』ミネルヴァ書房。

稲垣忠彦・佐藤学 (1996)『授業研究入門』岩波書店。

鹿毛雅治 (2019)『授業という営み：子どもとともに「主体的に学ぶ場」を創る』教育出版。

ガーゲン, K. J.&ギル, S. R. 著、東村知子・鮫島輝美 訳 (2023)『何のためのテスト？：評価で変わる学校と学び』ナカニシヤ出版。

木村優・岸野麻衣編 (2019)『授業研究：実践を変え、理論を革新する』新曜社。

白井俊 (2020)『OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来：エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房。
全米科学・工学・医学アカデミー編、秋田喜代美・一柳智紀・坂本篤史 監訳 (2024)『人はいかに学ぶのか：授業を変える学習科学の新たな挑戦』北大路書房。

日本教師教育学会第 10 期国際研究交流部・百合田真樹人・矢野博之 編訳 (2023)『ユネスコ・教育を再考する：グローバル時代の参照軸』学文社。

福井大学教育地域科学部附属特別支援学校編 (2011)『ゆっくりじっくりスローライフ教育』クリエイツかもがわ。

福井大学教育学部附属義務教育学校研究会・秋田喜代美 (2018)『福井発 プロジェクト型学習：未来を創る子どもたち』東洋館出版社。

牧田秀昭・秋田喜代美 (2021)『物語る校長』左右社。

■その他注意事項等

教師の専門的な実践力を培う福井大学教育学部の中心的な科目である。

世代を超えた互恵的な探究のスパイラルを実現させるために、「教職入門」「カリキュラムと教育方法」「教育実習事前・事後学習 a」「教職実践演習」は同じ時間帯に同じ教室で授業を行うことを基本とする。

■キーワード

パブリック・ラーニング、協働探究、世代のサイクル、真正の評価

■アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング科目

■授業形態

対面・オンライン併用授業ーリアルタイム・オンデマンド（資料配布）併用型

学年・コースをまたいだチームでの協働探究プロジェクトをオンラインで展開するため、Google Classroom を使用します。その一方で、学年別のアナウンスや成績評定に関わるレポートの提出は WebClass で行います。

■SDGs

4.質の高い教育をみんなに